

# 滋賀県高島郡安曇川町上小川方言の副助詞

井上 博文

## I. はじめに

1. 調査対象地; 高島郡安曇川町は琵琶湖西岸の北部に位置する、いわゆる湖西方言域である。上小川は戸数114戸、人口409人(1998.7現在)の農業を主とする集落である。初夏の用水路には稚鮎が群れをなして泳いでいる。この地は近江聖人といわれる江戸初期の陽明学の儒者である中江藤樹が「致良知」を根本として教えを説いた地である。いまも講書始(1.11)、立志祭(3.7)、常省祭(7.23)、藤樹大祭(9.25)の年中行事が行われて、その徳がたしかに息づいている地である。
2. 調査年月日; (1)平成10年(1998)6月6日 午後2時~4時  
(2)平成10年(1998)8月6日 午後11時~午後1時  
(3)この地での1996.7~1998.6の調査資料
3. 話者; 澗田 隆 氏(m.S.5)、沢田末次 氏(m.T.11)、志村清和 氏(m.T.15)。  
いずれも兵役を除いて外住歴はない。
4. 調査者・調査場所; 井上博文・藤樹書院(安曇川町上小川211)
5. 調査方法; (1)配布の統一調査票による面接調査、(2)談話資料
6. その他; 文例の文アクセントは、上昇調を「↑」、下降調を「↓」で表記する。訴えの機能を持つ、文中や文末の緩慢な上昇調を「↑」で示す。説明の中の語句のアクセントは高音部に上線を付した。

## II. 調査結果

(1) 添加・例示・提題などをあらわすもの

### A. 添加

1. 雨だけでなく風さえでてきた。○「アメバッカ」シジャ 「ノ」ーテ 「カゼ」モ  
フイテキタ ノー。 (雨と風とが混じる現象をフキブリと言う。)
2. 今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。①「コ」メ「バッカ」シジャ ノーテ  
ム「キ」モ 「ヨカッタ ノー。 ②コトシワ 「ギョーサン アッタ ノー。  
「ホーサ」クヤッタ ノー。「コ」メモ ム「キ」モ 「ヨカッタ ノー。

### B. 予想外の事実

3. 小学生でさえ簡単にワープロを使っている。○ショーカクセ「イデ」サ「エ ワープロ  
「ツコテル」ヤン カ「イ。
4. (宝くじが)当たると思っていなかっただけに嬉しい。  
○「アタル」ト 「オモテナン」ダノ「ニ」ー 「アタッ」テ 「ウレ」シ ワー。

### C. 条件

5. 暇さえあれば釣りに行っている。○ヒマガ アッタ「ラ 「タイ」ショ 「サカナツ」リ イッテル  
ワー。

### D. 例示

6. まあお茶でも飲んでください。○マー チャ「デ」モ ノ「ミ」ー ノー。「オチャデ」モ

「イレヨ カー。

7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。①「ミヤゲ」ニ 「コノ マン」ジュ  
モツテ 「イヌ カー。② ～ デ」モ モツテ 「イヌ カー。
8. 思わず跳び上がるほど嬉しかった。○「トビアガルホ」ド 「ウレ」シカッ」タ ワ。
9. まさかあなたにまで話しが行くとは思わなかった。  
○オマエ「ニマ」デ 「ソン」ナ 「ハナシ」カ イクトワ 「オモワナンダ ワー。
10. なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。  
①「ナグル」ヤラ 「ケル」ヤラ ソラ 「オ」ーソ」ドダツタ ワ。  
②「ナグル 「ケル」ラ 「ナーン」ト 「ヒド」イ コトオ シタ ワ。
11. 私になり相談してくれれば良かったのに。  
○ワシニ ナ「ン」デ イ「ワ」ナンダ」イロー。
12. 野菜なんていくらでもできる。○「ヤサイ」ッテ ナンボ「デ」モ 「デキル ジャー。

一対の例示

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。  
○「ショー」ユモ 「ミ」ソモ 「ミ」ナ イエデ ツクッ」テタ ワー。  
○「ソン」チョデアレ 「ダレ」デアレ 「キク」マデモ ナ「イ。村長であれまであれ聞くまでもない。

択一

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。○ワシカ「ー オ「トート」カー 「ダレ」カ  
「テッタ」イ 「イカス ワー。

例外でない

15. 村長とて、そうするより仕方なかったんだらう。①「チョー」チョ」モ ソースル」シカ  
「ショ」ーガ ナカッタ」ン 「チャウ カー。② ～ ソースルヨリ ～。

列举

16. 春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。○「ナーン」ト 「ウ」メモ 「サクラモ」ー 「ミ」ナ  
サイタ ノー。ハ「ル」ラシ ナッタ 「ノ」ー。

同類の暗示

17. テレビでもそろそろ買い替えよう。  
○テ「レ」ビモ 「ボ」チボチ 「カエン ナラ」ン 「ノ。

やわらげ

18. まあお茶でも飲んでください。○マー オチャ「デ」モ ノ「メ」 ノ。

## E. 包括

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。○「ボン」ヤ 「ショー」ガ」ツニヤー 「コー」モ  
「マ」コ」モ 「モン」テ「キヨル 「ワイ」ノ。

## F. 提題

20. ゲートボールだってできるよ。○ゲート「ボー」ル「デ」モ 「デキル。

提題（とりたて）の場合には係り助詞の「ワ」が用いられることが多いか。

○コンナコ「ト」ワ オマエ ザ「ラ」ニ 「アル」ン 「チガウ 「カ。こんなことは、おまえ、ざらにあるの  
とちがうか。



34. 毎日孫の守やなんかで忙しい。

○マイニチ 「マコ」ノ「モ」リデ 「モ」ー ボー「マ」イ「フツテル」ワ。

「それこそ」

(ボーマイワルは「忙殺される」の意)

35. それこそバケツをひっくりかえしたような大雨だ。○ソレ「コ」ツ 「ヒド」イモンニ ナツテル  
ワ「ー」。「バ」ケツニ 「ブチアケルホ」ド 「フツ」タ ノー。

「～ばかりか」

36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。○「オヤッサ」ンモ 「ヨメサ」ンモ 「スキ」ヤ ノー。

次の二つの文例の下線部のように語彙的な方法によって強調する。→項目 13.16

○「チ」チモ 「ハハ」モ 「リョーホ」トモ 「スキ」ヤ ワー。(野麻を)父も母も両方とも好きだよ。

○マー アメ「カゼ」 「ヨ」コシバキ「チ イーマス」ト 「サ」ケモ 「アマ」イモンモ  
「リョーホ」トモ 「スキヤツ」チ イーマス。 まあ「雨風よこしばき」と言いますと、酒も甘いものも両方とも好きだ  
と言います。

○「チ」チモ 「ハハ」モ 「ソロ」テ スキ「ヤ」 ナー。父も母もそろって好きだなあ。

K. 今にも行われる

37. もう食べるばかりにしてある。 ①②のように、副助詞を使わない表現を用いる。

①「モ」ンテキタラ 「クエルヨ」ーニ シテアルサカ「イ」ノ。

②「チャー」ント シテアルサカ「イ」 「イ」ンデ 「タベ」ーノ。

動作の完了直後

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。○「イ」マ 「モ」ンテキタバツ「カ」シ ヨー。

基準

39. 駅までもうちよつとだ。 ○「エ」キマデ 「モー」チョツ「ト」ヤ。

L. 等量の反復

40. 一人ずつ呼んで話をした。○ヒトリ「ズ」ツ 「キテモロ」ーテ 「ハナシ」タン ヨ。

M. 等量の配分

41. 一人に二個ずつみかんをやる。○フタ「ツ」ズ「ツ」 ナン「ド」 ヤツ「タ」ソコオ アン「ジヨ」ー  
タベ「ー」ノ。(「ナン」ト)はおやつ(の意 /zo/> /do/の音変化)

(3) 限定・限界などをあらわすもの

N. 限定

42. 酒はたまにしか飲まない。○サ「ケ」ワ 「タマニシ」カ ノ「マヘ」ン。

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べて来た。①「キョー」ワ 「ネスギ」テ 「パンダケ」  
「タベテ」キタ ワー。 ②「パンダケ」デ キタ ワー。

44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒よ。○ソんな「ニ」 「ベンキョーシテル」ト モ  
「カラダ」 イワツシマウ ジャ。

○モー 「コマカ」イ 「シゴトバツカ」シデ ホツ「コ」リシタ ノー。 もう細かいことはかりで疲  
れたね。(ホツコリスルは身体・精神的な全身的な疲労の意)

45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。

○「ヨ」ソワ 「ミ」ナ 「スنداケン」ド 「ウチダ」ケ 「ノコッテル」ワー。

O. 強調

- 46.もうこれだけしかないよ。①モ 「コンナケシカ ナ「イ」ワ。 (/da/>/na/の音変化)  
②コレシカ ホ「カニ」 ナ「イ」ワ。 ②は稀。  
47.今年こそいい年にしたい。  
①コトシ「ワ イート」シニ 「シタインヤ。 ②コトシ「コ」ツ ～。

P. 限界

- 48.これだけ言っても分からないのか！○「コンダケ ユー」テモ 「ワカランノ」カ。  
49.2千円くらいまでなら何とかなる。○ニセンエングラ「イ」ナ「ラ」 「モツテル」ワ。

(4) 陳述的なもの

Q. 「～ば～だけ」

- 50.肥料をやればやるだけよく育つ。○「ヤツ」タラ 「ヤルダ」ケ 「ナン」ト ヨ「ー」  
「デキル」ワ。  
○サクモツノ 「ナ」カ「ニ」ワ「ー」 コ「エ」オ 「ヨ」ケ 「ヤラ」イ「デ」モ エーモ「ノ」ト 「ヨ」ケ  
「ヤルモ」ント 「アリマ」ス。アルケドモ 「「ヤ」リヤ 「ヤルホ」ド ヨーデキル」ワ」  
「ソ」ンナコト「ワ」 ナー「イ」。作物の中には量をたくさんやらなくてもいいものとたくさんやるものがあります。あるけれども[やればやるほどよくできる]、  
そんなことはない。

「仮定形・ば・こそ」

- 51.心配すればこそ言うんだ。

○「シンパイ シテルサカ」イ オマイ。「ユーテヤツテ」ル ヤンカイ。

「こそ・仮定形」

- 52.彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。○「モン」クワ ユーケン「ド」  
「ユー」コト 「キッキョラン」ノー。

- 53.「～でこそあれ《コサレなども》」 言わない

「未然形・ば・こそ」

- 54.押しても引いても動かばこそ。○「タ」イショ 「オシテモ」 「ヒーテモ」 「アカン」ワー。  
「～こそ。」

- 55.失礼なことを言わないでこそ。○「ヒツ」レーナコト 「ユー」ナ 「ヨ」ノー。

「～こそ～が」

- 56.今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。○イマデ「コ」ツ 「ナン」ヤケン「ド」  
ムカ「シ」ワ 「ヨー」ソ「ラー」 「ア」チコチ 「イカハッタ」ンジャ 「ジャ」。

「～ば～ほど」

- 57.働けば働くほどもうかる。○「ハタラ」ケバ 「ハタラクホ」ド 「モー」カル。

R. 打ち消しとの呼応

- 58.村長に聞くまでもないことだ。○「ソ」ン「ナ」 ハナシワ 「キク」マデモ ナ「イ」ワー。

否定との呼応(それさえもない)

- 59.朝から忙しくて昼飯も食えない。

○「ナン」ト 「イソガ」シテ 「ヒルメシ」クテル 「マ」ーガ ナイ「ン」ヨ。

### 否定的取り上げ

60.こんなものなどいくらでもあるよ。○「コンナモ<sup>1</sup>ーン 「ナンボデ<sup>2</sup>モ 「アル<sup>3</sup>ワー。

### 全面否定

61.誰だってそんなことを言われたら怒るよ。○「ダレヤカ<sup>1</sup>テ 「ソンナモン オコル<sup>2</sup>ワー。

### S. 次の動作が不可能

62.10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。

○モー 「デタキ<sup>1</sup>リ 「オトサタナイ<sup>2</sup>ワ。「ドーシテラルヤ<sup>3</sup>ラ。

### (5)モダリティー的なもの

#### T. 不確かな気持ち

63.いつのまにやら眠ってしまった。○イツノ<sup>1</sup>マ<sup>2</sup>ニヤラ 「ネテシモテル<sup>3</sup>ラー。

64.何のことか分からない。○ナンノコ<sup>1</sup>トヤラ 「ワカラヘ<sup>2</sup>ンワ。

### 推定

65.後で遊びに行くかもしれない。○イマ 「イソガ<sup>1</sup>シ。トツ<sup>2</sup>テ<sup>3</sup>モ 「イッテラレ<sup>4</sup>ンケンド  
「マ<sup>5</sup>タ ヒマニ<sup>6</sup>「ナロ<sup>7</sup>ヤロサカイ イク<sup>8</sup>カ<sup>9</sup>モ 「ワカラ<sup>10</sup>ン 「ジャ<sup>11</sup>ー。

### どちらか分からない

66.来るのやら来ないのやらよく分からない。○「タイ<sup>1</sup>ショウ 「クルヤ<sup>2</sup>ラ 「コンヤ<sup>3</sup>ラ  
「ワカラヘン<sup>4</sup>ワー。

### はっきり言わない

67.どこやらへ引越したそうだ。①「ドッキヤ<sup>1</sup>ラ モー 「カーハラッタラシイ<sup>2</sup>ナー。

②「ドッキヤ<sup>1</sup>ラ「エ ～。

#### U. 非難

68.お父さんたら今日も遅いのね。○「オヤッサ<sup>1</sup>ンタラ 「キョ<sup>2</sup>ーモ 「オソ<sup>3</sup>イ<sup>4</sup>ノ<sup>5</sup>ー。

69.お父さんてば、子どものようなことを言っ。

○「オト<sup>1</sup>ーサ<sup>2</sup>ンタ<sup>3</sup>ラ 「コドモミタ<sup>4</sup>イナコト ユ<sup>5</sup>ーテ。

### III. 総括(まとめ)

(1) 今回の調査では副助詞として、バツカシ、ゾ・(ド)、サエ、デモ、ホド、マデ、ヤラ、ツテ、グライ、コソ、マデ、ズツ、シカ、ダケ・(ナケ)、カテ、キリ、カモ、タラ、が得られた。

(2) 次の文例 01 の「ゾ」は文例02,03に比して女性のやわらかい物言いをしたてる。この場合では述部の待遇表現の形式にも違いが見られる。

01.ドコ<sup>1</sup>ゾ<sup>2</sup>エ 「イッテハンド<sup>3</sup>ス 「ケ。(女性→他人さんへ) どこへかお出掛けですか。

02.「ド<sup>1</sup>コ 「イッタン カイ<sup>2</sup>ナ。(女房→亭主) どれ行ったのかい。

03.ド<sup>1</sup>コ 「イッテハ<sup>2</sup>ン 「デ。(男性→女性) どこへお出掛けですか。

この「ゾ」は「ドコゾ、ナンゾ」のようにもっぱら疑問詞に下接する。「ゾ」は「ド」ともなる。

(3) 「カテ」の文例

04.「ダレヤカ<sup>1</sup>テ オコル<sup>2</sup>ワー。誰だって怒るよ。

05.「アメカ<sup>レ</sup>テ 「ヤル デー。雨でもやるぞ。

06.ココラ 「サカ<sup>レ</sup>ナ 「ツカ<sup>レ</sup>ンダリ 「ネ<sup>レ</sup>ー。「ヤサイモン<sup>レ</sup>ニ 「シ<sup>レ</sup>タカテ 「ネ<sup>レ</sup>ー。  
モ<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>スゴ トレタ。こちあたりは魚探ったりねえ。野菜ものにしてねえ。ものすごくとれた。

(4)「ホド」による程度表現 「ホド」が下接することで比況的に数量を表す慣習的な連語をつくりだしている。

トビアガルホド (跳び上がるほど) 07.「トビアガルホ<sup>レ</sup>ド 「ウレ<sup>レ</sup>シカッ<sup>レ</sup>タ ワ。  
クサルホド (腐るほど)

08.カ<sup>レ</sup>ワ イ<sup>レ</sup>テ 「サカ<sup>レ</sup>ナガ ナン<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>モ クサル<sup>レ</sup>ホ<sup>レ</sup>ド トレタ <sup>レ</sup>ワ。

ミセサキニ ナランデアルホド (店先に並んでいるほど)

09.「ミセサキ<sup>レ</sup>ニ 「ナランデアルホ<sup>レ</sup>ド 「タク<sup>レ</sup>サン 「トレ<sup>レ</sup>タ。

他に、ウルホド (売るほど)、バケツニ ブチアケルホド (バケツにひっくり返すほど→項目 35)

(5) 今回の作業で、音声言語(口頭語)としての日本語(諸方言)の助詞の問題は、方言構文論の問題として重要な調査・討究課題であることを再認識した。調査票で期待される副助詞をなかなか得ることができなかった。文のことがらの側面を言い表すときも、方言の特定の言いまわしが存していて、例文に沿った表現を求めるといきおい「標準語」的な(文章語の)表現になってしまう。いわゆる無助詞表現、文章語と比較しての「助詞の省略」といういった現象は、日本語の基層の表現形態と関わっている。

(いのうえひろふみ 大阪教育大学)